

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 24, No. 3 神奈川県立生命の星・地球博物館 Sept. 2018



眠るツノトンボ (アミメカゲロウ目、ツノトンボ科)

体長: 約30 mm

神奈川県小田原市久野

2017年7月17日 渡辺恭平 撮影

わたなべ きょうへい
渡辺 恭平 (学芸員)

皆さんはツノトンボという昆虫をご存じでしょうか？ トンボによく似た姿をしています^{さなぎ}が、蛹のステージをもつ、れっきとした完全変態の昆虫で、ウスバカゲロウ(アリジゴク)に近い仲間です。

この虫はススキが生えるような明るい草地に生息していますが、昼間はなかなか見ることができません。ところが、夏の夜、ちょうどカブトムシなどを探しに行くときに、懐中電灯の明かりで草むらを照らすと、葉の先端などにぶら下がって眠っている個体がよく見つかります。

探す時には、懐中電灯の光で赤く光る複眼を頼りに探すとよいでしょう。

神奈川県には3種のツノトンボが分布しています。複眼が上下2つに分割される(右下の拡大写真を参照)のがツノトンボとキバネツノトンボで、昼間から夕方活動します。複眼が上下に分割されないのはオオツノトンボで、夜間に活動します。いずれも成虫は他の昆虫を捕らえて食べます。複眼の分割と活動時間の関係は海外の種でも同様のようで、どのような意味があるのかが気になります。